



伝統構法
に学ぶ

住まい 涼木

その6

文・荒野一星

『佐賀の木・家・まちづくり協議会』—— 県民の豊かな住生活の実現を図ろうと、住宅関連業、林業、材木業、建築設計業など各業界に行政も連携。住まいづくり、まちづくりを総合的に推進するため、08年に設立された。この協議会では、毎年各分野からの様々な提案を募集しており、優秀な提案には賞が与えられる。

09年第2回「佐賀の木・家・まちづくり賞」において、小林さんは見事「佐賀の木賞」知事賞を受賞。

小林さんの作成した住まいづくりのプランに、半屋外の縁側空間を回廊状に廻らせた「九州型」というモデルがある。

1、2階とも東・南・西とコの字型に廻る回廊状の縁側。その自由さ！その開放感！縁は「えにし」とも「よすが」とも読む。家の内と外とを結ぶ「えにし」でもあり、「よすが」でも



どこか懐しく、どこか新しい空間

第6回夢木香セミナー「心地よい木の空間を求めて」レポート。講師は、セミナー当時、小林建築設計工房代表であった一級建築士、小林利武さん。(現・夢木香設計部の責任者)ご自身の手がけられた設計例を、スライドで映写しながらのスピーチ。日本古来の伝統構法と、氏が学んでこられた西欧のモダンニズムの観性が、いかに無理なく融け合うことができるか、わかりやすく話していただいた。(11・2・6)

ある場、「縁」。天の気と地の気を繋ぐ自然木にこそ相応しい役どころではある。内と外の境界が融け去る一体感。

陰陽相和して太極へと至る宇宙律そのものの表現と言えるだろう。構造面でも、壁面内の貫、桁と差し鴨居を束で組んだ合成梁、縁側・軒先まで繋げた登り梁、木組みの仕口も金物に頼らず、接点数を多くして、地震・台風などの外圧を建物全体に分散して受け流す。日本古来の伝統構法の

智恵と、小林さんの新工夫が無理なく融け合っている。このモデルプランを、「通り土間とウッド・パルコニーの家」という形で表現したのが、受賞対象となった鳥栖の緒方邸。縁側は南面だけだが、1、2階ともたっぷりとした縁側スペースで、開放感に溢れている。

夜、明かりの灯った緒方邸。その明かりを目にした瞬間、道行く人もホッと心が和んでしまう。造る人、住む人、近所の人、そして訪れる人：すべての人々が相和し、豊かな気持ちにしてくる自然木の空間。これからの住まいの在り様を示唆する表現として高い評価を受け、審査員全員一致での「佐賀の木賞」知事賞受賞。素直にうなずける。福岡県柳川市の「田んぼの中の雁行の家」新谷邸にも、「九州型」モデルプランの考え方が活かされている。縁側を雁行させることで、内と外の境界がより希薄化。建物が所有格を手放し、まわりの風景と違和感なく融け合っている。どこか懐かし、どこか新しい空間。その温もり、居心地の良さ。スライドの映像を見ただけでそう観じるのだから、実際にその場に身を置いたら、正に至福の時だろう。それにしても、一見対極にあるように見える、日本の伝統構法と西欧のモダンニズムの観性が無理なく融け合えるのも、「伝統〓基本」であるからに他ならない。そう観じた。

夢木香 10 周年記念講演会

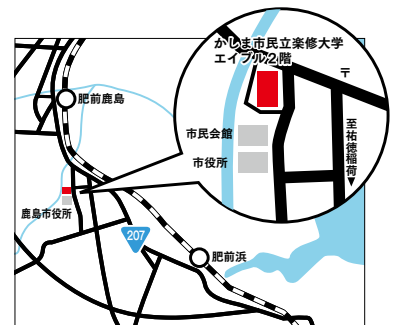
伝統文化とまちづくり

「超高層から茅葺へ」池田武邦氏(建築家)
「あきらめないで！口から食べること」
角町正勝氏(歯科医)

次世代への伝言 近代化を追い求め、自然と乖離しすぎた現代日本。先人が残してくれた伝統文化を継承し次の世代に伝承してゆく大切さ。100年後の未来にのこすものは何かを問う。

日時：平成23年6月12日(日)
13:00～16:30(受付12:30～)
場所：エイブル(鹿島市生涯学習センター)ホール

※入場無料。左記までご連絡下さい。(FAX、メール可) ※先着300名様



有限会社 夢木香

日本民家再生協会正会員
佐賀県鹿島市大字三河内甲 2847
http://www.yumekikou-happy.com
TEL:0120-835-832
TEL:0954-69-8333 FAX:0954-69-8334
E-mail:yumekikou@globe.ocn.ne.jp